



あちこちにあるトンネルの出入り口

かつての南ベトナムの首都、サイゴン（現在のホーチミン）から北西に七十キ余り、クチ県の農村地帯の雑木

林に南ベトナム解放民族戦線（ベトコン）のクチ地区の作戦本部があった。それは建物ではなく

アリの巣のように広がった地下トンネルの中であり、司令室、診療所、台所などがあった総延長二百五十キ。当初は地下一階であったが、アメリカ軍の攻撃が激しくなり、地下三

サビエル生誕五百年

巡礼の道

202

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

十五キ離れたサイゴン川まで続いており、出入り口は各地に点在して草や木で巧妙に隠されている。アメリカ兵をして「ゲリラはどこにもいないが、どこにでもいる」と言わしめたゲリラ戦のためのトンネル。今、観光客が入れるトンネルは地下三、長さ五十層で腰を曲げてやっと通れる狭さ。私は二十層でギブ・ア

階まで掘られた。



クチトンネル想像図

トルコでカッパドキアの地下都市に入った時のことを思い出す。カッパドキアの方はキリスト教徒がローマ軍やイスラム勢力の迫害から逃れて隠れ住んだ地下都市であるが、クチトンネルの方は強大な軍事力を誇るアメリカ軍と闘うゲリラ戦のためのもの。トンネルに入る前、小屋のような建物の中でアメリカ軍と農民ゲ

ップした。

見学コースの途中では、農民たちが主食として食べた蒸したタロイモの試食もあった。戦争といえは、第一次世界大戦までは双方

リラがどのように闘ったかを紹介する日本語の映画を見た。別的小屋では英語やフランス語で紹介している。あちこちにアメリカ兵に対して仕掛けたワナが展示されている。鋭利な杭が何本も突き出た落とし穴。木の上から落とす鉄トゲの下など、極めて素朴で原始的なものでアメリカ軍に対抗したことがよくわかる。昼間はトンネル内に潜んで、すきを見ては攻撃し、夕方、アメリカ軍が引き揚げると、農民として田んぼや畑で食物を耕作する。



農村ゲリラの闘いが日本語で紹介される

の軍隊が闘うものであったが、ベトナム戦争は市民ゲリラも参加した民族解放闘争であったと「クチトンネル」は訴えているように思えた。クチからホーチミン市に引き返すと街は庶民の活気が満ちている。ドイモイ政策により共産主義国ではあるが、市場経済が導入された。中国も同様だが「共産主義」という理念よりも権力者が自分たちの権力を維持するための独裁体制で、そこで生活する庶民にとっては、体制は余り関係ないものと思えた。（元山口放送取締役ラジオ局長）